様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　３ 年　６ 月 １８ 日現在

機関番号：１４４０１
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2016～2020
課題番号：１６Ｋ０４０６４

研究課題名（和文）Women and religious civil society in Japan: Implications for participatory democracy

研究課題名（英文）Women and religious civil society in Japan: Implications for participatory democracy

研究代表者
ＣＡＶＡＬＩＥＲＥ　ＰＡＯＬＡ（CAVALIERE, PAOLA）

大阪大学・人間科学研究科・特任准教授（常勤）

研究者番号：１０７６９５８２

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,700,000円

研究成果の概要（和文）：近年の宗教社会学では多くの日本宗教団体が迅速に社会支援と復興活動を計画し、地域資源としての宗教団体の重要性が明らかになったのである。その多くの宗教団体では女性が大多数を占め、社会貢献活動には主要な役割を果たしている。本研究の目的は宗教的背景を持つ女性がどのような資源を生かして、社会貢献活動によってどの程度社会参加の進展するのかを検討した。それが女性の参加が実際のエンパワーメントや社会参加の拡大につながり、民主化のための目的達成手段となりうるのかという点を明らかにしようと試みた。

研究成果の学術的意義や社会的意義
「ジェンダー・宗教・市民社会研究」という３つの研究動向をつなぐものとして、本研究は学際的なアプローチによって宗教的社会貢献活動において女性の役割と女性のエンパワーメントを検討した。宗教団体に所属する女性たちの社会貢献活動は宗教的市民社会形成の担い手であると言える。このような宗教的市民社会形成の拡大中、女性の社会参加の進展、民主化、エンパワーメントとジェンダー平等に大いに関わっていると考えられ、宗教的背景における社会貢献活動の役割を理解する上で重要な意味合いを持っている。これらのテーマに貢献する本研究は、国内外学術界において国際的な研究行動に位置付ける。

研究成果の概要（英文）：Women tend to constitute the majority of members in most Japanese religious organizations, where they extensively engage in relief and social welfare activities at a grassroots level. This research aimed to investigate women’s volunteer activities sponsored by Japanese religious organizations from a gender perspective, testing the hypothesis that religious volunteering works as a gateway for women’s expanded social participation, thus encouraging empowerment and democratization. Based on extensive field research, the framework for the analysis of the role of faith-based volunteering in fostering empowerment and democratization draws upon two analytical approaches:the Access Model theorized by Wisner et al.(2004);and the empowerment thesis (Kabeer 1999). The results show that Japanese religious civil society contributes to cultivating democratic habits and advancing leadership, also promoting gender equality and fostering women entrepreneurship in Japanese informal and formal economy.

研究分野：社会学

キーワード：ジェンダー　宗教　市民社会研究　社会貢献活動　エンパワーメント　災害研究

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

先行研究では女性の草の根の宗教的社会貢献活動、特に知識的資源および関係的資源に焦点をあてながらその社会的自己実現へ及ぼす影響やアイデンティティ変容を扱った (Cavaliere 2015)。調査対象とした宗教団体の女性の主な社会貢献活動は社会福祉、子育て支援、貧困の撲滅、災害支援・復興支援活動であった。調査結果は女性ボランティアが宗教的信念に基づいて社会貢献活動に活躍することもあるが、単にボランティア精神の支えになる信仰だけがその動機であるとは言えないことがわかった。むしろ女性ボランティアは女性のニーズを中心しながら社会問題を解決する社会貢献の志向を持っていたことが明らかになった。結論は宗教団体に基づく女性の社会貢献活動は市民社会への積極的な動きかけであり、市民社会運動のような組織である。女性たちは自己の場と他者を認識しながらアイデンティティ変容の過程に取り込まれて、複雑な構造の中で戦略的に資源を利用力を成長させる。それはアイデンティティ構成との重要な関わりで、自己実現へ影響を及ぼしていることを明らかにした。

２．研究の目的

その背景には「ジェンダー・宗教・市民社会研究」という３つの研究動向をつなぐものとして、本研究は学際的なアプローチによって社会貢献活動において宗教団体に所属する女性の役割とコミュニティにおける女性のエンパワーメントを明らかにすることを目的とした。日常の活動実践によって社会的認知度が高くなるほど女性が積極的に社会貢献活動に努め、自発性に解決方法などを求める傾向について明らかにすることを目的とした。本研究は、宗教と結びつきのある女性のボランティア活動によるエージェンシーに焦点をあて、日常的なボランティア活動とその活動領域へと導かれる中でのジェンダー実践や社会化の規範的役割を注意深く考察する目的であった。そして現場で幅広く活躍している女性が宗教関係でないほかの団体や施設、行政、NPO・NGO などと連携しながらの草の根の社会貢献活動を行っている過程について明らかにする目的であった。つまり利用可能な資源（関係的資源および知識的資源）を求め、自分がどのような対処するのか判断力を得ているのかについて検討した。様々な分野における多様な主体のネットワーク化による連携・協働を進め、女性の自発性やパートナーシップ、活動組織を作る能力が示されるかについて調べた。対象者はほとんど宗教団体以外の組織（主に公的サービスにあたる施設・機関など）で、社会貢献活動の主体は宗教主導より女性のボランティア集団となることが先行の調査する目的もあった。

３．研究の方法

この研究目的の答えを見出すため、６つの研究上の問いと具体的課題を以下の通り設定した。

① 女性の視点から見たコミュニティにおけるニーズ調査と原因とその探索（先行文献レビューと先行研究調査を含む）

② 宗教団体に属する女性のジェンダーと宗教的背景―文化と宗教団体の既存の諸資源へのアクセスと利用可能・不可能性

③ どのようなニーズに対して、どのような資源を生かして、どのような支援活動を提供するを検討

④ 地域課題と多様な担い手を浮かび上がら女性支援活動による強い地域づくりを行ってきた宗教団体の役割を明らかにする

⑤ コミュニティにおける宗教団体に所属する女性の支援活動の評価を検討―宗教団体・宗教的背景において支援活動の評価；コミュニティづくり活動の評価

⑥ エンパワメント概念に基づいて宗教的背景をもって活動している女性の社会参加の拡大、民主化、エンパワーメントとジェンダー平等を調べ、宗教的市民社会の役割を理解する

宗教的背景において支援活動に参加する対象者(女性 82 名；男性 12 名)に聴き取り調査を行った。宗教団体である創価学会、GLA、立正佼成会、日本カトリック教会、真如苑、天理教を対象とし、地域に固有の状況や文脈などを調査するうえで優位性がある事例研究のアプローチを採用した。それらの団体に所属する女性の社会支援活動や災害支援・復興支援活動などに女性の視点を反映しながら検討した。調査対象者数への参加観察と聴き取り調査(32 名の in-depth インタービューを含む)をもとに Nvivo 等質的データ分析ソフトによってコンテンツ内容を解析した。主な分析課題は次の通りである：(1)女性のニーズについて：原因と関係性；(2)男女で異なる生活状況や支援ニーズとその対応策（宗教的背景をもたない対象についても調べる）；(3)支援活動のための情報や資源へのアクセスと男女の違い；(4)支援活動計画・自治体などまちづくりにおける女性の参画と女性の視点；（４）地域コミュニティに活動のインパクト：課題の解決過程、良好の関係性

４．研究成果

調査対象とした宗教団体は主に社会貢献活動は社会福祉（真如苑、立正佼成会)、子育て支援（立正佼成会)、貧困の撲滅（日本カトリック教会)、災害支援・災害対応訓練（GLA、創価学会）である。聞き取り調査では女性ボランティアが宗教的信念に基づいて社会貢献活動に活躍することもあるが、単にボランティア精神の支えになる信仰だけがその動機であるとは言えず、宗教上の信念よりむしろ社会問題に関する意識、社会責任、危機感のほうが重きを占めており、社会貢献の志向を持っていたことが明らかになった。そして日常の活動実践によって社会的認知度が高くなるほど女性が積極的に社会貢献活動に努め、自発性に解決方法などを求める傾向があることがわかった。それによって利用可能な資源（関係的資源および知識的資源）を求め、自分がどのような対処するのか判断力を得ているのである。また現場で幅広く活躍している女性が宗教関係でないほかの団体や施設、行政、NPO・NGO などと連携しながらの草の根の社会貢献活動を行っている事実も確認された。つまり様々な分野における多様な主体のネットワーク化による連携・協働を進め、女性の自発性やパートナーシップ、活動組織を作る能力が示されたのである。宗教集団と個人の両方のレベルの資源に対する効果的な選択能力も表されていた。結論は宗教団体に基づく女性の社会貢献活動は市民社会への積極的な動きかけであり、市民社会運動のような組織である。周辺環境の中で、多角的な社会の構造状況の理解を深めることを通して、社会意識を身につけていた。それは、行動や地域の資源や状況について、客観的に考えることを助長する。また、社会と経済を活性化するために役立つ社会的スキルと課題別のスキルを提供するものでもあった。エンパワーメント論の視点から、これらの機能を検証すると、すべては、先行研究が指摘する社会福祉事業でのエンパワーメントの過程のダイナミクスに属していること

がわかる。このような宗教的市民社会団体の拡大は、女性の社会参加の進展、民主化、エンパワーメントとジェンダー平等に大いに関わっていると考えられ、宗教的背景における社会貢献活動の役割を理解する上で重要な意味合いを持っている。

引用文献

Cavaliere, Paola 2015. *Promising practices: Women volunteers in Japanese religious civil society*, Leiden: EJ Brill Publishers,

Kabeer, Naila. 1999. "Resource, Agency, and Achievement: Reflections on the Measurement of Women's Empowerment." Development and Change 30: 435-464

Wisner, Ben, Piers Blaikie, Terry Cannon, and Ian Davis. 2004. At Risk Second Edition: Natural Hazards, People's Vulnerability and Disasters. London, New York: Routledge

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計5件（うち査読付論文　2件／うち国際共著　2件／うちオープンアクセス　4件）

１．著者名 Cavaliere Paola	４．巻 10
２．論文標題 Women between Religion and Spirituality: Observing Religious Experience in Everyday Japanese Life	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Religions	６．最初と最後の頁 1-21
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.3390/rel10060377	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 該当する

１．著者名 Cavaliere Paola	４．巻 5
２．論文標題 Female leadership in contemporary Japanese religious organizations: The case of Shinnyoen	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Osaka Human Sciences	６．最初と最後の頁 139-156
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/71751	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Cavaliere Paola	４．巻 5
２．論文標題 Women and local faith communities in building disaster resilience in Japan	５．発行年 2019年
３．雑誌名 Global Outlook	６．最初と最後の頁 12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 －

１．著者名 Cavaliere Paola	４．巻 7-2
２．論文標題 Mothers and moral activists: observing women in religious informal volunteering in Japan	５．発行年 2018年
３．雑誌名 Journal of Religions in Japan	６．最初と最後の頁 93-125
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.1163/22118349-00702003	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 該当する

1．著者名 Cavaliere Paola	4．巻 44
2．論文標題 現代日本宗教における女性指導者 ―真如苑の事例から―	5．発行年 2018年
3．雑誌名 間科学研究科紀要	6．最初と最後の頁 317-331
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.18910/68304	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 ―

〔学会発表〕　計7件（うち招待講演　4件／うち国際学会　7件）

1．発表者名 Cavaliere Paola
2．発表標題 Building resilience: The role of women in faith-based disaster response to the 2016 Kumamoto earthquakes
3．学会等名 British Association for Japanese Studies, Joint East Asian Studies Conference（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Cavaliere Paola
2．発表標題 Women and religious volunteering in Japan at the start of the new era
3．学会等名 Italian School of East Asian Studies (ISEAS), 13th ‘Manabu’ Conference, Kyoto（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2019年

1．発表者名 Cavaliere Paola
2．発表標題 Articulating the neoliberal motherhood discourse: visions of gender in Japanese new religions
3．学会等名 Biennial Conference of the International Association for the study of Religion and Gender (IARG)（招待講演）（国際学会）
4．発表年 2018年

１．発表者名 Cavaliere Paola
２．発表標題 Earthquake, vulnerability and resilience: the point of view of women in religious volunteering
３．学会等名 Annual Conference of the Italian Association for Japanese Studies（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Cavaliere Paola
２．発表標題 The role of women in faith-based disaster response in Japan: the case of Soka Gakkai and GLA
３．学会等名 Annual Conference of the Association for the Study of religions in South Africa（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 Cavaliere Paola
２．発表標題 Women in faith-based disaster response in Japan
３．学会等名 The University of Venice - Workshop（招待講演）（国際学会）
４．発表年 2018年

１．発表者名 CAVALIERE PAOLA
２．発表標題 Testing the empowerment thesis: a typology of Religious Civil Society Organizations in Japan
３．学会等名 EAJS, Kobe University（国際学会）
４．発表年 2016年

〔図書〕　計4件

1．著者名 Cavaliere Paola	4．発行年 2018年
2．出版社 ABC-Clio	5．総ページ数 289-290
3．書名 Encyclopaedia of Women and World Religions: Faith and Culture across History - Tenrikyo	

1．著者名 Cavaliere Paola	4．発行年 2018年
2．出版社 ABC-Clio	5．総ページ数 275-277
3．書名 Encyclopaedia of Women and World Religions: Faith and Culture across History - New Religions	

1．著者名 Cavaliere Paola	4．発行年 2018年
2．出版社 ABC-Clio	5．総ページ数 154-156
3．書名 Encyclopaedia of Women and World Religions: Faith and Culture across History - Zen	

1．著者名 Kassam, Zyan (Ed.)	4．発行年 2017年
2．出版社 ABC=CLIO	5．総ページ数 283-296
3．書名 Women in Asian Religions: Women in Contemporary Japanese Religious Civil Society Groups	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関